



第195号

令和5年
9月3日発行
秋彼岸号

西光



和食と仏教に学ぶ 幸せになる秘訣

ブツダ最後の教え 月の喩え

宗祖法然上人立教開宗850年記念事業

永観堂限定夜間拝観「PureLand Lights」

寺フエス「この世のならひ」

法然上人に学ぶ 遺し置くもの

秋彼岸会のご案内 奉納琵琶演奏

日本伝統文化保存会 筑前琵琶旭城会

師範 堀本旭紹 ・ 中野旭彩



浄土宗西山禅林寺派
雲龍山 西光寺
住職 大塚靈閑

〒671-0101
姫路市大塩町229番地

Tel 079-254-0351
Fax 079-254-4142



西光寺公式LINE
ID:@495ehfde

幸せになる秘訣

豚汁があればすべては事足りるんじゃないかと思う時があります。豊富な具材は栄養面でも最強です。ちょい足しで柚子胡椒を入れるのも割と好きです。うどんを入れれば煮込みうどんです。更にはカレーにリメイクするのがオススメのようです。もはやドラゴンボールのフリーザのように変身していくのです。

昨今、料理人の土井善晴さんが具たくさん味噌汁の一汁一菜でよいという提案をされて話題を呼んでいます。「食材は切り揃えるとか、そんななん目つぶっててもええんですよ」「あくを取るとか取らんとか、そんななんもどうだってええんですよ。大したことないから」などと、セオリーやレシピから解放された肩ひじ張らない料理への向き合い方が支持されています。これも道を究めたプロが言うから成り立つことで、私が言うただの雑な男料理となってしまう。

そんな土井氏と政治学者の中島岳志さんの『料理と利他』という対談本に仏教と



料理の共通点として興味深いことが書かれてありました。

和食には和え物という料理があります。一つ一つの食材に敬意を払う。ですから「混ぜる」ではなく「和える」。それぞれがご機嫌でいてもらう。それぞれの存在感を、美しいところを尊重させて、隣同士に…仏教ではこれを他を利すると言います。利他といえます。複数の食材の利他が互いに働きあつて、一つの美味しいものが生まれる。均一に切る必要などないではないか、むらや不揃いを楽しむ、みんながご機嫌でいてもらう、それが本来の日本の家庭料理である。

太平洋戦争の激戦地、硫黄島の「鎮魂の丘」の碑に井上靖さんの言葉が刻まれています。

もう自分一人の幸福を求める時代は終わった。ほかの人が幸福でなくて、どうして自分が幸福になれるだろう。

もう自分の国だけの平和を求める時代は終わった。ほかの国が平和でなくて、どうして自分の国が平和であり得よう。

和え物の精神で世界は平和になるはず。無理矢理自分の色に染めようとするから、当然思い通りにいかず争い、諍い、つまり不和が起るわけです。なんとも簡単な理屈のように思えます。自分一人で生きているのではない、みんながご機嫌でいてもらうことが結局巡り巡って自分の幸せにつながる。

一緒にいる家族、一緒に時間を過ごすことの多い友人、毎日のお会いする近所様、とにかく身近な人にご機嫌でいて頂くことが、いつも自分の幸福度に関係してくるようです。自分の幸福度を高めるために、他人に幸せになつてもらうとはなんとも逆説的に聞こえます。人をモノのようにというのは語弊があるかもしれませんが、周辺環境を整えるという意味では納得できるような気も致します。

月が隠れると、人々は月が沈んだとい
い、月が現れると、人々は月が出たと
いう。けれども月は常に住して出没す
ることがない。仏もそのように、常に
住して生滅しうめつしないのであるが、ただ
人々を教えるために生滅を示す。

人々は月が満ちるとか、月が欠けると
かいうけれども、月は常に満ちてお
り、増すことも減ることもない。仏も
またそのように、常に住して生滅しな
いのであるが、ただ人々の見るところ
に従って生滅があるだけである。

ブッダ 最後の教え

月の喩え

月はまたすべての上に見れる。町に
も、村にも、山にも、川にも、池の中
にも、かめの中にも、葉末はすえの露にも
現れる。人が行くこと百里千里で
あっても、月は常にその人に従う。月
のそのものには変わりはないが、月を
見る人によって月は異なる。仏もま
たそのように、世の人々に従って、限
りない姿を示すが、仏は永遠に存在
して変わることがない。

八月三十一日はスーパーブルームーンの日でした。一年で月が最も地
球に近づいたために、普段より大きく、そして明るく見え(スーパームーン)、かつ一か月で二回目の満月に出会える(ブルームーン)という偶然
が重なり「スーパーブルームーン」ということなのです。初めて知りま
した。

子供が学校の宿題で観察日記が出たため、一緒に一時間毎に観察
しておりました。「うーん、雲に隠れて見えないな」「あ、今、雲がぶつて
ない。でもちよつとぼやけてない?」「というかそんなに大きい?」など
言いながら、そこまでの感動もなく(コラッ)、観察終了となりました。
ちなみに今年の中秋の名月は九月二十九日だそうです。

さて月シーズン到来ということで、ブッダが亡くなる直前に説かれた
という『だいほつねはんぎやう大般涅槃経』というお経の中の、仏を「月」にたとえ、説かれたく
だりをご紹介しないわけにはいきません。それが上の三つの言葉です。

仏の世界に往かれた方もまたしかり。

私が思い立って上を見上げればそこにいる。

姿が見えなくとも、声が聞こえてこなくとも、

確かにそこに在り続けてくれる。

そついった安心感といまじょうか。

その感覚を持つてるといふのは幸せなことだと思えます。

亡き人を供養している私達の方が実はずっと見守られていたのですね。

この秋、宗祖法然上人立教開宗850年記念事業二本立て



寺フェス!

「この世のならび」

お坊さんと遊ぼう。

10月14日15日あさ10時〜ゆうがた5時まで
永観堂全山を使ってのお坊さん手作りイベント盛りだくさん

- ◆お坊さんと話せる「Salon de Bose」
- ◆お坊さんコスプレ体験
- ◆2000年イラストレーション原画展
- ◆お坊さんトークライブ
- ◆QuizKnockの法然上人クイズ
- ◆アンドモア!
- ◆臨終作法体験

永観堂14日15日両日 日中無料拝観

ピュアランド

新世紀的 限定夜間拝観 ライツ

浄土の光

PureLand Lights

10月7日〜15日よる6時〜8時30分まで(8時受付終了)
九日間だけ夜の永観堂境内が、浄土になります。

- ◆阿彌陀堂ライトアップ
- ◆幽玄なる読経、法然上人追慕の法要
- ◆プロジェクト「光の浄土法要」
- ◆安田登×青年僧・池上創作舞台
「法然上人と空津の遊女(土・日限定)」
- ◆プロジェクト「光の参道」

永観堂境内夜間無料拝観



詳しくはwebで
<https://honen850.jp>



浄土宗西山禅林寺派総本山永観堂

法然上人が浄土宗を開かれて850年を来年にひかえ、この秋、本山永観堂において2つの記念事業を実施いたします。

「PureLand Lights」とは「浄土の光」という意味です。法然上人立教開宗850年に最新の技術を使って光の浄土を永観堂に映しだし、感覚的に光の浄土を皆様に体感して頂こうというものです。プロジェクションマッピング自体は最近珍しいものではないですが、この度の「PureLand Lights」は「プロジェクションマッピング×僧侶のお経・お念仏」のコラボという新しい試みです。限定拝観なので事前予約制ですが、檀信徒特別枠がありますので、当日受付で西光寺の檀家ですと名乗って頂ければご入場頂けます。尚、紅葉シーズンの「もみじのライトアップ」(今年は11/3〜12/3)とは別イベントですのでご注意ください。

寺フェスはお寺、お坊さんの世界をより身近に感じて頂くイベントで、お坊さんとお話ししましょう、遊びましょうというイベントです。あいにく両日大塩のお祭りの日にあたりますが、ご来場頂ければ幸いです。



「PureLand Lights」内容紹介

◆ プロジェクションマッピング・光の参道

大玄関から大殿前までのもみじの参道をプロジェクションマッピングで荘厳し、極楽浄土の光の道を現出します。

◆ 法然上人追慕の法要 期間中毎日18:30～19:00

宗祖法然上人の御影をお祀りしている大殿の縁にて、僧侶による法然上人への追慕の法要が行われます。過度なライトアップをしない幽玄な荘厳の中に日没礼讃の読経が響きます。

◆ プロジェクションマッピング×僧侶・光の池上法要

祝・平日(10/9～13) 19:15～19:30

境内中央の放生池にて、プロジェクションマッピングと僧侶によるコラボレーション「光の池上法要」が行われます。白く発光した池上に、僧侶が立ち礼讃の読経と念仏を称えます。そこにプロジェクションマッピングが施され、極楽浄土が浮かび上がります。

◆ 安田登一座(ノボルーザ)×青年僧・池上創作舞台『法然上人と室津の遊女』

期間中の土日(10/7・8・14・15) 19:15～19:45

放生池にて能楽師安田登一座と僧侶による創作能が演じられます。流罪中の法然上人にお念仏の教えを請う室津の遊女のエピソードを基に安田登氏が書きおろした能を、白く発光した池の上で、安田登一座と僧侶の読経のコラボレーションで上演します。

◆ 阿弥陀堂ライトアップとみかえり阿弥陀如来拝観

ライトアップにより彩色が鮮やかに浮かび上がる阿弥陀堂で、ご本尊「みかえり阿弥陀如来」にお参り頂けます。



さて何を遺そうか…

まず身もかたもないことから申すと「お金」です。それも適度なお金です。お馴染みの名作「ボケずに長生きしなはれや」にそう書かれています。

お金の欲を 捨てなはれ

なんぼゼニカネ あつても

死んだら 持っていけまへん

あの人は ええ人やった

そないに人から 言われるよう

生きてるうちに バラまいて

山ほど徳を 積みなはれ

そやけど それは表向き

ほんまはゼニを 離さずに

死ぬまで しつかり持てなはれ

人にケチやと 言われても

お金があるから 大事にし

みんなベンチャラ言うてくれる

内緒やけど ほんまだつせ

やはしか…

法然上人の場合

さて、来たる令和六年は法然上人が浄土宗を開かれて八五〇年の節目の年を迎えます。せっかくの機会ですので、法然上人に学びましょう。

法然上人の臨終りんじゆうにあたり、弟子の一人が「古来の高僧にはごなたにも遺跡いせきがあります。しかしお師匠様はお寺一つもお建てになりませんでした。亡くなられた後、どこを遺跡とすればよいでしょうか」と尋ねました。

すると法然上人は「遺跡を一方所に定めてしまえば私の教えは広まらないでしょう。私は生涯をかけて様々な場所で



法然上人のご臨終
(イラスト: 京都 瑞泉寺住職 中川龍学師)

お念仏の教えを説いてきました。お念仏の声のしているところは、身分の高下こうげを問わず、いかなる場所であっても、すべてが私の遺跡です」とおっしゃいました。先往く人が後に残る者に何を遺すか。法然上人らしいお言葉です。

身は死すとも 心は死せず

今月の門前掲示板に書かせて頂いた聖路加国際病院の院長、故日野原重明先生のことばです。

自分のためにでなく

人のために生きようとするとき

その人はもはや孤独ではない

誰かの命の中に自分の命を残している。誰かの心の中で思いが生き続ける。遺された者は思いをしつかり受け継ぐ。その思いが様々な人々の心の中で小さな灯火のごとく燃え続ける。究極の供養の形です。最後の最後まで、「どのようにならぬか」ではなく「どのようにならぬか」を問いつつ、走り続けて参りましょう。

お知らせ



令和6年、浄土宗は850年を迎えます



立教開宗850年特設サイト
<https://honen850.jp/>



facebook
<https://www.facebook.com/honen850>

今月のことば

〜門前掲示板より〜

いっそ

大きく凹へこもう

いつか

多くを満たす

器になるのだ

(伊東袖月)

九月

自分のためにでなく

人のために

生きようとするとき

その人は

もはや孤独ではない。

(日野原重明)



ご逝去の報

高砂	八若信代さん(92歳)	令和5年7月16日寂
佐土新	梶原洋子さん(81歳)	令和5年7月18日寂
東ノ丁	濱田昭子さん(86歳)	令和5年7月19日寂
東ノ丁	黒川たね子さん(103歳)	令和5年7月25日寂
曾根	神本薫さん(79歳)	令和5年8月13日寂
高砂	三浦修さん(78歳)	令和5年8月21日寂
須磨	丸毛明さん(78歳)	令和5年8月27日寂

編集後記

今年もお盆が無事に終わりました。ご先祖様もこないに暑いと思わなかったでしょう。「もうええわ、帰らせてもらっわ」と聞こえてきそうな暑い夏でした。さて、そうこうしているうちに、すぐに秋のお彼岸です。原稿書きに追われております…

一この度の秋のお彼岸は、琵琶の弾き語りによる優雅なひとときを楽しみましょう。京都は錦大宮の休務寺住職、堀本俊紹師に琵琶奏者・堀本旭紹として奉納演奏して頂きます。五年ぶりのご来寺で、この度は弟子の中野旭彩さんにも一緒にお越しいただきます。どうぞお誘いあわせてお参り下さい。

今後の行事予定

◆ 十夜会

十一月二十六日(日)

午後一時〜

◆ 除夜の鐘・修正会

十二月三十一日(日)

午後十一時四十分頃〜

秋彼岸会

日時

9月24日(日)

午後1時～ お勤め

午後1時半～ 塔婆回向

午後2時～ 奉納琵琶演奏

午後3時～ 塔婆回向

とうばえこう
<塔婆回向について>

西国33ヶ所の御詠歌をあげながら、ご先祖の供養をいたします。ご希望の方は当日世話人席にてお申込み下さい。戒名(〇〇家先祖代々、俗名でも構いません)と施主名(お申込みの方のお名前)をメモしてお持ち頂くとスムーズです。1霊300円です。

日本伝統文化保存会 筑前琵琶旭城会

師範 堀本旭紹



曲目「禪師と政宗」

誤解により伊達政宗からひどい仕打ちを受けた草履取りの平四郎は、怒って城を飛び出してしまう。その後、僧侶の道をめざし、政宗から受けた恥辱をバネにどんと出世していきます。雲居禪師となつて、伊達政宗の再興した松島・瑞巖寺の住持となり、政宗と数十年ぶりの再会を果たします。史実では、1636(寛永13)年、55歳の時に松島・瑞巖寺の住持になったが、この時すでに伊達政宗は没していたそうです。

中野旭彩



曲目「文覚発心」

1137年春、摂津国渡辺(現在の大阪府)で行われた橋供養で、遠藤盛遠は16歳の袈裟御前という美人を見付け恋をします。ところが二人は、いとこでした。盛遠は叔母で袈裟の母親・衣川にこのことを相談します。袈裟は14歳の時に結婚していたため、衣川は盛遠に諦めるよう諭します。すると盛遠は刀を抜いて「この気持ちが叶えられないなら、あなたを殺す」と衣川を脅しました。

今回は琵琶奏者として呼んで頂きました。筑前琵琶ってどういう楽器なのかというご説明と、演奏曲目の解説もさせていただきます。今回は弟子の中野も寄せて頂きます。古典の芸能を楽しんでいただけたら幸いです。(堀本)